

おすすめの科学作家「竹内薫」さん

①竹内薫さんの本との出会い

みなさんは、竹内薫という人をご存じでしょうか。猫好きのサイエンスライターとして、小説、エッセイ、翻訳など、多数の本を出筆し、テレビでも過去に「たけしのコマ大数学科」（フジテレビ）、「サイエンス ZERO」（NHK）にレギュラー出演するなどマルチに活躍された人です。今回、紹介する著書は彼のデビュー作である『アインシュタインと猿』の新装版です。

この本の初版本との出会いは、30年以上前になります。私が教員に成り立ての頃、たまたま立ち寄った東京の本屋の一角に置かれてあり、表紙一面に大きくペロを出した愛嬌たっぷりのアインシュタインの絵に惹かれ、手に取って読んでみたら面白そうなのでつい買ってしまったことがきっかけです。この出会いは彼の著作との最初の出会いでもありました。何の因果か20年後に赴任3校目の桐生高校でSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の記念講演会の講師として彼が招かれることになったのですが、私の親父が亡くなり、会うことができませんでしたが、代わりに同僚の先生に頼んで初版本で買ったこの本に直筆サインをもらいました。

『アインシュタインと猿』
：パズルでのぞく物理の世界
竹内薫， 原田章夫／著
SBクリエイティブ

②デビュー作『アインシュタインと猿』の紹介

この本の中身は、数学・素粒子・天文に関するホットな話題が随所に取りあげられており、分野ごとに三択を中心に発問し、答えの説明を筆者とコピーライターである彼の叔父との絶妙な会話で進める形式をとっており、読みやすく、理系好きの人には好奇心をそそる内容にもなっています。具体的には、①日本列島の海岸線の長さは？②ものは、なぜ見えるのか？③磁石を切ったら、S極・N極に分けられないのは？など、「フラクタル」「量子力学」「相対性理論」など、現代数学や現代物理学の数式を使わずに、考え方や本質を言葉で説明してくれています。

好奇心をそそる話題としては、「透明人間」「宇宙エレベーター」についても触れています。

この本は、それ以降の彼の著作の科学作家としての「原型」が詰め込まれており、大学を文系（法律）からスタートし、卒業後、物理学科に転入した彼の経歴からもわかるように、数式にアレルギーを示す文系の読者の立場も十分理解した上で、物理の愉しさを多くの人に伝えたいという筆者の思いが伝わってきます。この本の「COFFEE BREAK」のコーナーでは、この本が筆者のカナダ留学中に、大学の建物の中のカフェテラスでゆっくり、のんびりとした雰囲気の中で書かれたものであることがわかります。私も大学で物理を専攻し、一応卒業しましたが、もっと勉強しておけば良かったと後悔しています。しかし、今は、コーヒーを飲みながら、同僚の先生方と科学や現代物理について、のんびり話ができればこの上ない幸せだと思ふようになりました。この話を聞いて、少しでも興味を持った人がいたら、是非、筆者の作品に触れてみてはどうでしょうか。現代物理に触れる切っ掛けになれば幸いです。

お知らせ

公務員試験向けの参考書を 寄贈してもらいました!!

公務員の内定をもらった3年生から公務員試験向けの参考書を10冊も寄贈してもらいました。
Y君ありがとう!! 大事に使わせていただきます。

注意

図書館で借りていった本に書き込みをする生徒が稀にいます。とても迷惑です。
また問題集などは、繰り返し解くことにより効果がでると言われています。書き込むと1度しか利用できず自分のためにもなりません。
書き込んで勉強したい人は、自分の本で。



冬休み中は利用できません

図書館は、冬休み中に蔵書点検を行うため、利用できません。
蔵書点検とは、貸出処理を行わずに持ち出された本がないか確認する作業のことを言います。

ご迷惑をおかけしますが、図書館にとって大事な作業のため、ご了承ください。

高崎市勤労者文芸作品 最優秀作受賞!

社会科の狩野先生が高崎市主催の「勤労者文芸作品 文芸たかさき」生活部門最優秀作を受賞しました。
作品は、先生が顧問をしている軽音楽部での一曲を題材に書かれています。

